

授業科目名	教育管理論	実施時期	4年次 後期	
授業回数	90分×8回	単位・時間数	1単位 15時間	
担当者名	酒井 吉仁 (理学療法士)			
【授業の概要・目的】 理学療法士として求められる基本的な資質・能力を有し、生涯にわたり専門的知識・技術の向上と豊かな人間性を育み、チーム医療職の一員として、科学的根拠に基づいた治療を対象者に提供するための根幹である教育と学習、マネジメントについて学ぶ。				
【到達目標】 ①あらゆる年齢、健康・障害レベル、生活の場を持つ人びとの健康で自立した幸福な生活の実現に貢献することを誓うことができる。 ②対象者の尊厳を基軸とした理学療法の提供・発展に関わる素地を養う行動を理解する。 ③診療参加型臨床実習の理念とシステムについて理解する。 ④理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本を理解する。				
回	学習項目	学習内容	行動目標	
1	プロフェッショナルリズム	医療倫理と理学療法倫理	プロフェッショナリズムについて説明できる	
2		対象者中心の視点、コミュニケーション		
3		理学療法士の使命、役割と責務		
4	教育と学習	生涯学習と臨床教育	生涯学習と臨床教育について説明できる	
5				
6	マネジメント	水準と品質保証、マネジメント	理学療法士に必要なマネジメントについて説明できる	
7		リスク・セーフティマネジメント		
8		多職種連携、チームステップ		
授業形態		講義、演習	評価方法	レポート
教科書		資料を配付		
参考書		「臨床実習の手引き 第6版」日本理学療法士協会		

授業科目名	スポーツ障害	実施時期	4年次 後期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	1単位 30時間
担当者名	中村 拓人 (理学療法士、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)		
【授業の概要・目的】 スポーツ理学療法の基礎知識、スポーツ障害・傷害への対応方法を学習する。			
【到達目標】 ・スポーツ動作を理解する ・スポーツ障害・傷害の基礎知識、対応を習得する			
回	学習項目	学習内容	行動目標
1 2	総論	スポーツリハビリテーション	スポーツリハの役割、内容を解説する
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	スポーツ障害	上肢の障害に対する理学療法 (コンディショニング、トレーニング) 下肢の障害に対する理学療法 (コンディショニング、トレーニング) 体幹の障害に対する理学療法 (コンディショニング、トレーニング)	スポーツ障害の病態、評価・治療を解説する 障害に応じた理学療法技術を実践する (ストレッチング、マッサージ、テーピング、トレーニング)
15	知識・技術確認	スポーツ障害に対するリハプログラム	スポーツ障害に対する理学療法知識・技術の確認
授業形態	講義、演習	評価方法	授業への参加状況を総合的に判定して行う
教科書	資料		
参考書	資料		

授業科目名	保健理学療法学	実施時期	4年次 後期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	1単位 30時間
担当者名	徳田 裕（理学療法士）		
【授業の概要・目的】 福祉、保険分野における理学療法士の役割について学ぶことを目的とする。			
【到達目標】 1. 医療保険、介護保険制度について理解し説明できる。 2. 介護予防における理学療法士の役割について理解し説明できる。 3. 健康増進における理学療法士の役割について理解し説明できる。			
回	学習項目	学習内容	行動目標
1	介護保険法	予防概論	介護保険法における地域支援事業について理解する 介護予防に必要な統計、リスク管理を理解する
2		認知症予防	認知機能を理解し予防プログラムを考える
3		運動器予防	運動機能を把握し、予防プログラムを考える
4		口腔機能予防	口腔機能を理解し、予防プログラムを考える
5		失禁予防	尿失禁を理解し、予防プログラムを考える
6		介護予防評価	介護予防評価の理論と方法を理解し、実際に評価を体験する
7	公衆衛生	医療制度	医療、介護保険制度における理学療法士の役割を理解する
8		生活習慣病	生活習慣病の概念と現状について理解する
9			主な生活習慣と健康（栄養、運動、休養、健康教育）について理解する
10		健康増進	運動指導の意義を理解し、プログラムを考える
11			生活習慣の意義を理解し、生活指導を考える
12			心理相談の意義を理解し、メンタルヘルスケアの必要性を理解する
13			栄養相談の意義を理解し、食習慣の改善の必要性を理解する
14			産業保険分野における理学療法士の役割について考える （肩凝り）
15		産業保険分野における理学療法士の役割について考える （腰痛）	
授業形態	講義、演習	評価方法	レポート、授業への参加を総合的に判定
教科書	必要に応じ資料を配付		
参考書	適宜紹介する		

授業科目名	臨床実習Ⅱ・Ⅲ	実施時期	4年次 前期
担当者名	理学療法学科教員	単位・時間数	各 6単位 270時間
<p>【授業の概要・目的】 病院・診療所などの医療提供施設において、臨床実習指導者である理学療法士の下で診療参加型の実習をⅠ期 7週間実施する。社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。</p>			
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての習慣・態度をとることができる。 2. 理学療法の業務を理解できる。 3. 基本的な理学療法の実施過程を理解することができる。 4. 基本的な理学療法を模倣・実施することができる。 5. 理学療法観の育成することができる。 			
<p>学習内容</p> <p>各医療提供実習施設において、臨床実習指導者の指導のもとに偏りなく、各疾患の対象者について、身体的・心理的・社会的状況を十分理解し、基本的な理学療法を見学、模倣、実施する。各施設での臨床実習終了後の学内セミナーにおいて、自己の学習内容の確認、補足と他者との学習内容の共有をはかる。自己の学習内容の確認、補足は、1教員担当3～5名程度のゼミで指導を受け行われる。他者との学習内容を共有する目的で、症例報告会、理学療法実演会が行われる。</p>			
授業形態	実習、セミナー		
評価方法	セミナー発表・OSCE等を総合的に評価する。		
教科書			
参考資料	臨床実習マニュアル、臨床実習報告書		

授業科目名	臨床実習Ⅳ	実施時期	4年次 前期
担当者名	理学療法学科教員	単位・時間数	3単位 135時間
<p>【授業の概要・目的】 介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設などの施設において、臨床実習指導者である理学療法士の下で診療参加型の実習を4週間実施する。社会的ニーズの多様化に対応した臨臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。</p>			
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての習慣・態度をとることができる。 2. 理学療法の業務を理解できる。 3. 基本的な理学療法の実施過程を理解することができる。 4. 基本的な理学療法を模倣・実施することができる。 5. 理学療法観の育成することができる。 			
<p>学習内容</p> <p>介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設などの実習施設において、臨床実習指導者の指導のもとに偏りなく、各障害を有する対象者について、身体的・心理的・社会的状況を十分理解し、基本的な理学療法を見学、模倣、実施する。</p> <p>各施設での臨床実習終了後の学内セミナーにおいて、自己の学習内容の確認、補足と他者との学習内容の共有をはかる目的で、症例報告会が行われる。</p>			
授業形態	実習、セミナー		
評価方法	セミナー発表等を総合的に評価		
教科書			
参考資料	臨床実習マニュアル、臨床実習報告書		

授業科目名	卒業研究	実施時期	4年次 前期・後期
授業回数	90分×30回	単位・時間数	2単位 60時間
担当者名	理学療法学科教員		
<p>【授業の概要・目的】</p> <p>本科目では、3年次で作成した研究計画書に基づいてデータ収集と解析を行い、得られた結果を考察し、理学療法への展開を学ぶことを目的とする。</p>			
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の必要性について説明することができる。 2. 研究を進めるための過程を説明することができる。 3. 必要な文献の検索、抄読が行える。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 機器を使用し、研究に必要なデータを測定し、データの分析を行なうことができる。 6. 文献を用いた結果の検証を行うことができる。 7. 卒業研究論文を作成することができる。 8. 卒業研究発表を行うための準備ができ、適切に他者に内容を伝えることができる。 9. 対象者に対する人道的・倫理的な対応を行える。 10. 探求心を持ち問題解決に取り組み、能動的に学習を行うことができる。 11. 研究チームの一員として協調的に行動できる。 12. 時間管理ができ、計画的に研究を進めることができる。 13. 収集したデータを適切に管理、保管することができる。 			
<p>学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成 2. 文献検索・収集 3. 予備実験 4. 研究計画書の修正 5. データ測定・計測 6. データ解析 7. 文献を用いた結果の検証 8. 論文作成 9. 研究発表 			
授業形態	1教員が約6名(2～3名1組)を担当するゼミ形式で行われる。 ゼミには、3年生も参加し、研究チームとして研究活動が行われる。		
評価方法	卒業研究論文、発表内容		
教科書			
参考資料	『標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法』内山 靖／医学書院 「卒業論文執筆規定」「卒業研究発表要領」		